報道関係者各位

2025 年 12 月 15 日
森ビル株式会社

虎ノ門ヒルズ ステーションタワー
第 24 回緑化技術コンクール「日本経済新聞社賞」を受賞
～エリア全体の回遊性の向上と賑わいを創出する緑化事例～

森ビル株式会社（東京都港区、代表取締役社長：辻慎吾）が管理・運営する「虎ノ門ヒルズ ステーションタワー」が、この度、第 24 回緑化技術コンクール（主催：公益財団法人 都市緑化機構）において「日本経済新聞社賞」を受賞しました。

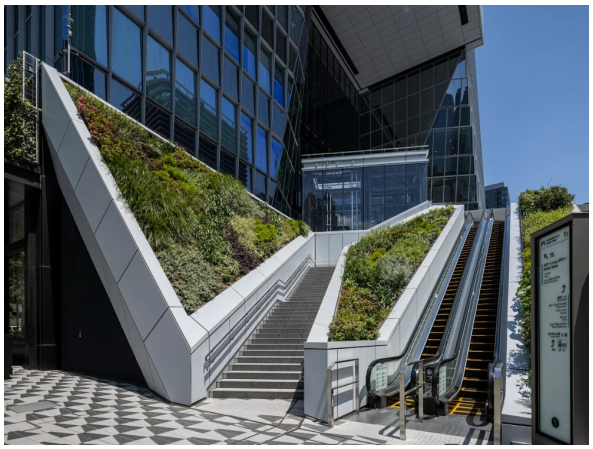
緑化技術コンクール 「日本経済新聞社賞」とは

「緑化技術コンクール」（主催：公益財団法人都市緑化機構）は、気候変動への適応、2030 年ネイチャーポジティブの実現、官民連携による居心地の良い空間づくりやにぎわい創出等の実現に資する緑化技術について、積極的に取り組み、優れた成果をあげている民間企業、公共団体、個人等を顕彰することにより、都市緑化技術の一層の普及推進を図り、もって都市緑化技術の新たなフェーズへの移行に寄与することを目的としています。そのうち「日本経済新聞賞」は、緑化の効果により経済・社会等に好影響を与えたと評価された作品・製品・技術を顕彰するものです。

回遊性向上、緑のネットワーク構築、デザイン性などを高く評価

この度のステーションタワーの受賞においては、「赤坂・虎ノ門緑道に面し、エリア全体の回遊性の向上と賑わいを創出する緑化施設であること」、「建物デッキや壁面、斜面地、室内、上層階など多様で大規模な緑化により、緑のネットワークを構築していること」、「地下支柱や人工土壌、灌漑システムなど、高い緑化技術と巧みなデザイン性」などが高く評価されました。

虎ノ門ヒルズ ステーションタワー



高い緑化技術による斜面地の緑化

当社は、引き続き、虎ノ門ヒルズにおける「国際新都心・グローバルビジネスセンター」の形成を通じて、国際都市・東京のさらなる磁力向上に貢献してまいります。

【本件に関するお問合せ先】
森ビル株式会社 広報室 立島
TEL：03-6406-6606 FAX： 03-6406-9306 E-mail：koho@mori.co.jp

虎ノ門ヒルズ ステーションタワーにおける緑化の特徴

■緑のネットワーク形成における要衝地

ステーションタワーでは、日比谷線「虎ノ門ヒルズ」駅との一体開発によって、開放的な地下鉄駅前広場「ステーションアトリウム」と桜田通り上空にかかる幅員 20m の大規模歩行者デッキを創出。地上・地下・デッキレベルをシームレスに繋ぐ重層的な交通ネットワークにより、エリア全体の回遊性を高めるとともに、街に新たな賑わいを生み出しています。また、赤坂・虎ノ門緑道に面し、環状第二号線を軸として形成される「東西の環境軸」と、その軸を直交する皇居・日比谷公園から愛宕山周辺に連なる「南北の環境軸」が交差するエリアに位置し、緑のネットワーク形成における要衝地の役割を担っています。

■在来種をベースとした大規模かつ重層的な緑化

新虎通りから赤坂・虎ノ門エリアへ抜ける都市の軸線を意識したステーションタワーのデザインコンセプトである「アクティビティ・バンド」に沿って、地上部だけでなく、デッキ、壁面、斜面、室内、そして屋上に至るまで約 7,000 ㎡を重層的に緑化しています。また、植栽計画では高木や中木、低木を織り交ぜながら「在来種をベースとした緑化」を実現。季節の移ろいを感じることができるエリアや、緑の表情や豊かさを感じるエリア、落ち着き・安らぎを感じることができるエリアなど、訪れる人々が多様な緑に触れ合える空間を創出しています。

■高低差があり、複雑な傾斜が重なる斜面地において、難易度の高い緑化を実現

高低差があり複雑な傾斜が重なる斜面地の緑化は難易度が高く、プランターやユニットを置くことが一般的です。一方、ステーションタワーの地上から 2 階レベルをつなぐ壁面や斜面地では、ハニカム形状の土壌枠を用いた「テラセル工法」をベースとした緑化技術を導入することで、設計・施工難易度の高い斜面地での緑化を実現しました 。また、荷重条件に制限があるなかで大規模な屋上緑化を実現するため、多孔質人工軽量土壌や黒土を使用。加えて、樹種に応じた最適な土づくりを行い、自動潅水システムを備えることで樹木の生育をサポートしています。

在来種が中心のウエストガーデン

賑わいを創出する緑豊かな空間

高さ 10m を越える最上階の壁面緑化

大規模な壁面緑化による快適な沿道空間